

第 8 節 特筆すべき動物

第 1 項 オオタカ・ハイタカ

1 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のオオタカ、ハイタカについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

1 - 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査は表 8 - 1 に示したとおり、平成 15 年 4 月及び平成 16 年 1 月から 3 月にかけて実施した。

表 8 - 1 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第 1 回	平成 15 年 4 月 17 日	6:30 ~ 13:00	生息確認調査
第 2 回	平成 16 年 1 月 16 日	6:30 ~ 13:00	
第 3 回	平成 16 年 2 月 19 日	6:30 ~ 13:00	
第 4 回	平成 16 年 3 月 17 日	6:30 ~ 13:00	

1 - 1 - 2 調査地点

調査地点は、図 8 - 1 に示したとおり、施設と最終処分場計画地を広く見渡せる 2 地点で実施した。

1 - 1 - 3 調査方法

調査は定点観察により行い、オオタカ及びハイタカの飛翔が確認された場合は行動を追跡し、把握することとした。

また、調査にあたっては、8 倍程度の双眼鏡と、25 ~ 50 倍程度のフィールドスコープを用い、さらに、オオタカ等が確認された場合は、無線機を用いて、調査員間で連絡を取り合い、行動をより詳細に把握することとした。

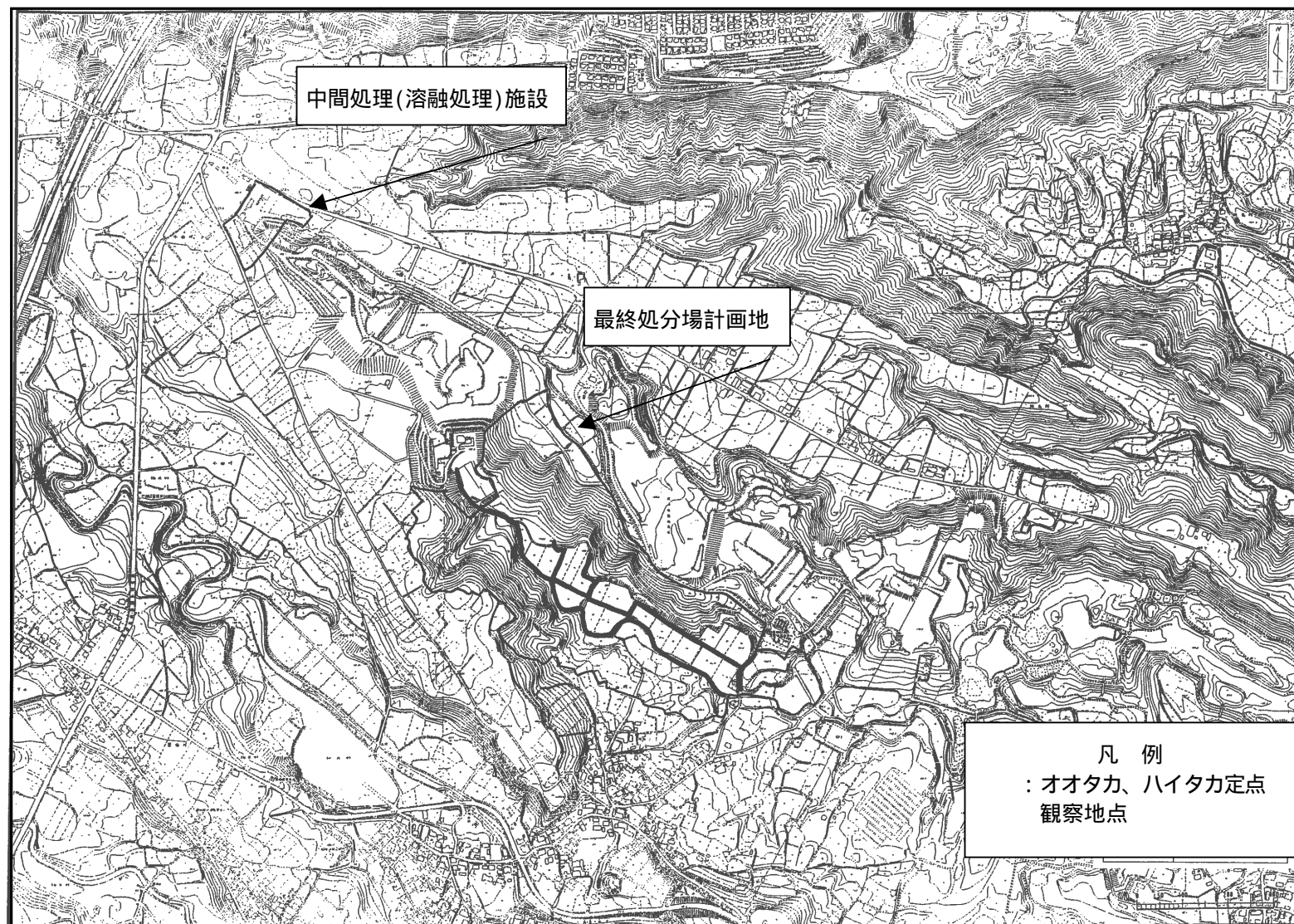


図 8 - 1 オオタカ・ハイツカ調査地点

1 - 2 調査結果

調査の結果、表 8 - 2 に示したとおりオオタカを 3 例確認したが、確認状況はいずれも飛翔のみで、巣材運びや、餌運び、ディスプレイ飛翔など、繁殖を示唆する行動は確認できなかった。

オオタカの確認状況を図 8 - 2 に示した。

表 8 - 2 オオタカ確認状況

	種名	確認年月日	成幼・雌雄	確認時間	確認状況
1	オオタカ	平成 16 年 1 月 16 日	成鳥・	9:18 ~ 9:18	最終処分場計画地上空をカラスに追尾されながら北へ飛翔する 1 個体を確認。そのまま北側の林で消失した。
2				10:45 ~ 10:45	1 の確認位置より西側で北へ飛翔する 1 個体を確認。そのまま北側の林で消失した。
3		平成 16 年 3 月 17 日	不明・不明	9:41 ~ 9:41	ハシブトガラスに追尾されながら東より飛来。そのまま南西方向に飛去した。

注：表中 1 は図 8 - 2 に対応

1 - 3 まとめ

調査の結果、1 月、3 月の調査時にオオタカを 3 例確認した。確認状況はいずれも飛翔のみであり、巣材運びや、ディスプレイ飛翔などの繁殖を示唆する行動は確認できなかった。

最終処分場計画地の北側には四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用している状況である。

さらに、最終処分場計画地一帯の森林をこれらカラスが縄として多数利用しており、カラス同士のなわばり争いや、他の鳥類(トビ等)への攻撃などが頻繁に行われている状況であった。

このことから、当該地域はオオタカ、ハイタカ等の猛禽類の繁殖には適さない環境であると考えられる。

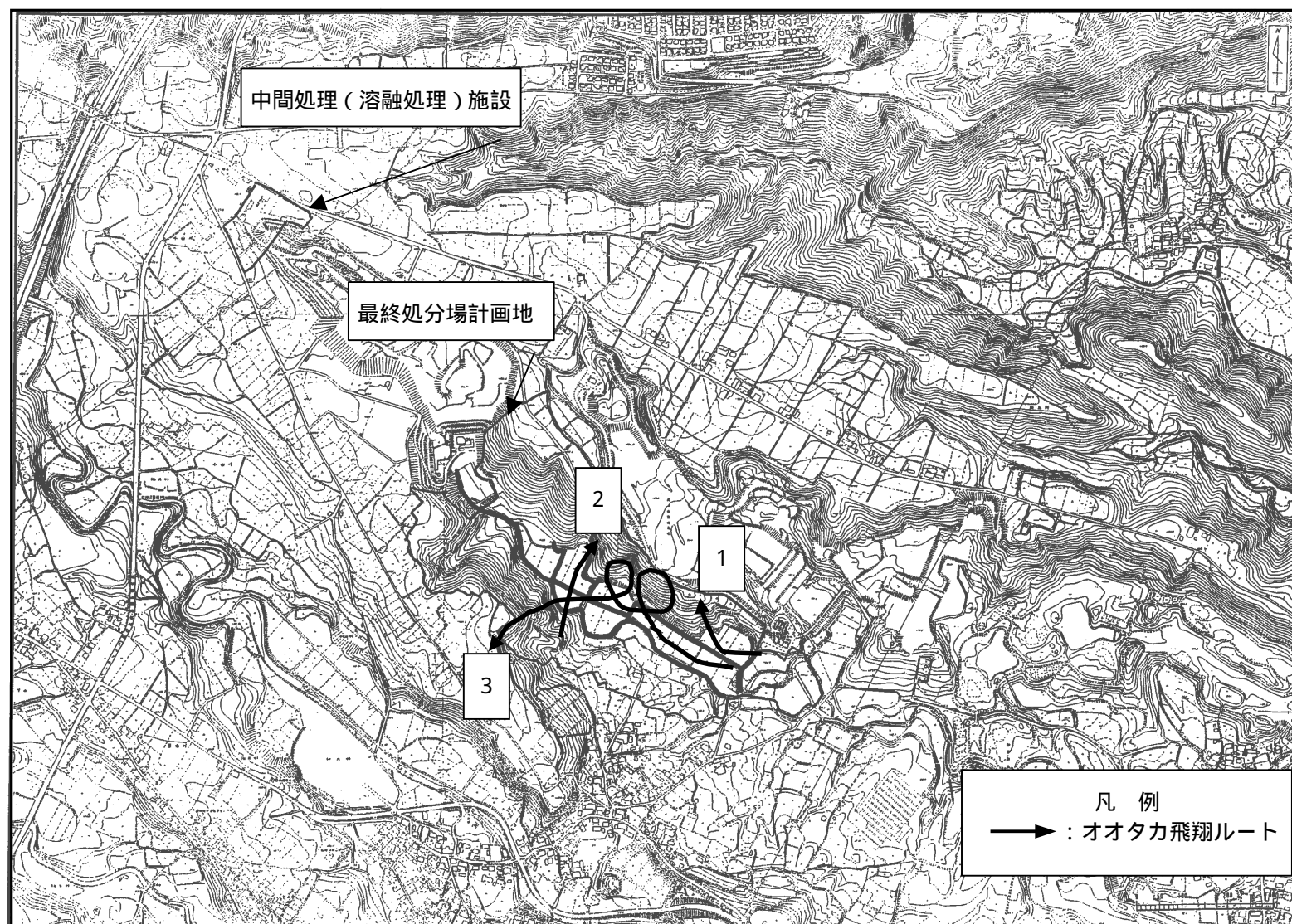


図 8 - 2 オオタカ確認状況

第2項 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ

2 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のチュウサギ、タゲリ、サンショウクイについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

2 - 1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査は表8 - 3に示したとおり、夏鳥であるチュウサギ、サンショウクイを6月に、冬鳥であるタゲリを1月に実施した。

表8 - 3 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
チュウサギ	平成 15 年 6 月 11 日	任意観察調査
サンショウクイ	平成 15 年 6 月 11 日	
タゲリ	平成 16 年 1 月 16 日	

2 - 1 - 2 調査範囲

調査範囲は、図8 - 3に示したとおり、最終処分場計画地周辺で実施した。

2 - 1 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

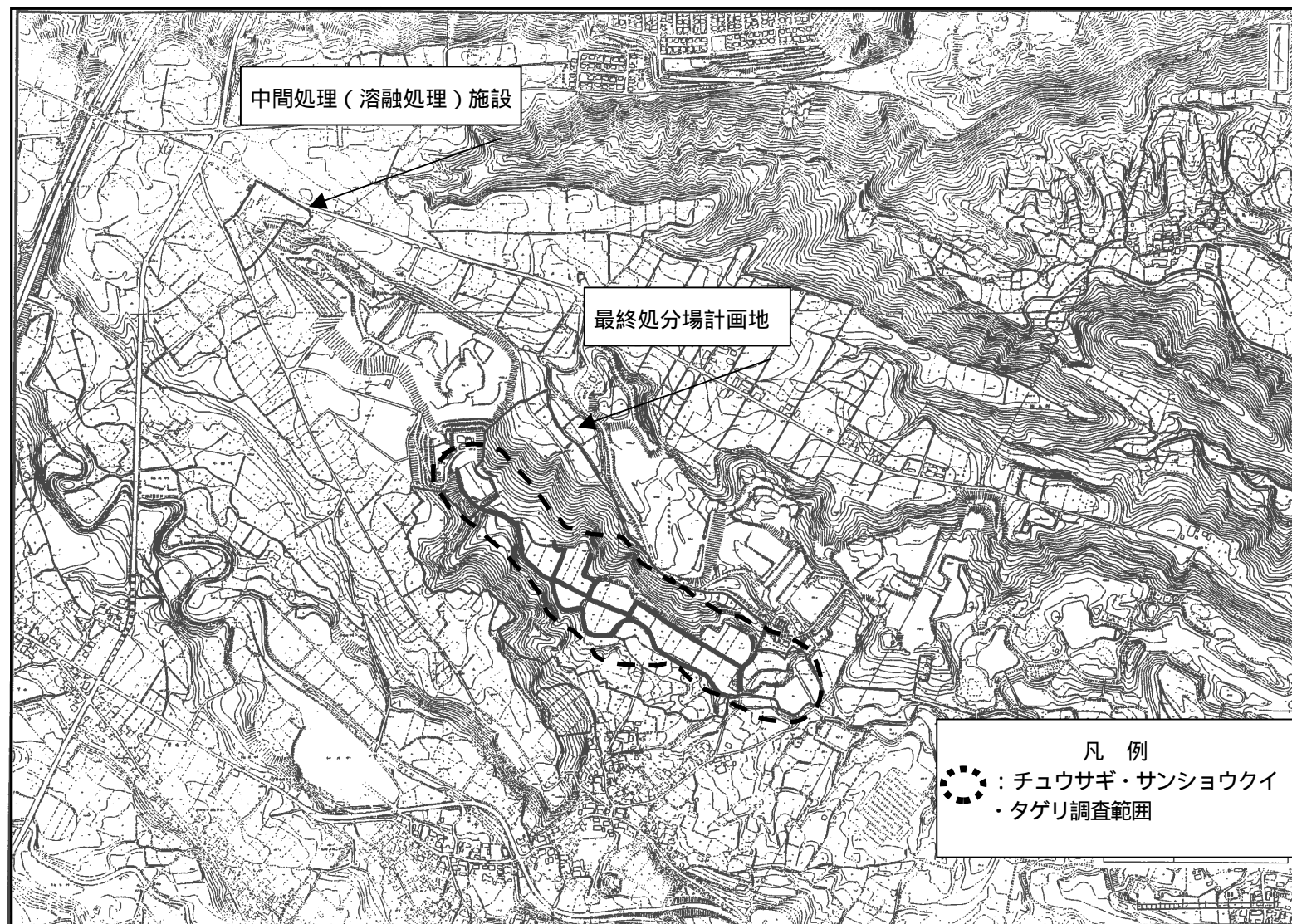


図 8 - 3 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ調査範囲

2 - 2 調査結果

調査の結果、調査対象種 3 種のいずれも確認できなかった。

2 - 3 まとめ

本調査の結果、対象とした 3 種（チュウサギ、タゲリ、サンショウクイ）のいずれも確認できなかった。

チュウサギ、サンショウクイについては、今回、生息は確認できなかったが、本地域では夏鳥とされており、本種を確認した現況調査時と比べ、周辺の環境は大きく変化していないことから、今後も飛来する可能性はあると思われる。

タゲリについても、今回の調査では確認できなかったが、本地域では冬鳥とされており、本地域周辺では繁殖は行わないことから、本種については今後、本地域を餌場の一部として利用するために飛来する可能性はあると考えられる。

第3項 フクロウ

3 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のフクロウについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

3 - 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査は表8 - 4に示したとおり、平成15年4月及び平成16年1月から3月にかけて実施した。

表8 - 4 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成15年4月18日	17:00～21:00	生息確認調査
第2回	平成16年1月16日	17:00～21:00	
第3回	平成16年2月13日	17:00～21:00	
第4回	平成16年3月12日	17:00～21:00	

3 - 1 - 2 調査範囲及び調査方法

調査は、評価書における現況調査で本種の飛翔等を確認した場所を中心に計画地内を広く踏査する任意観察により実施した。

調査範囲は図8 - 5に示したとおりである。

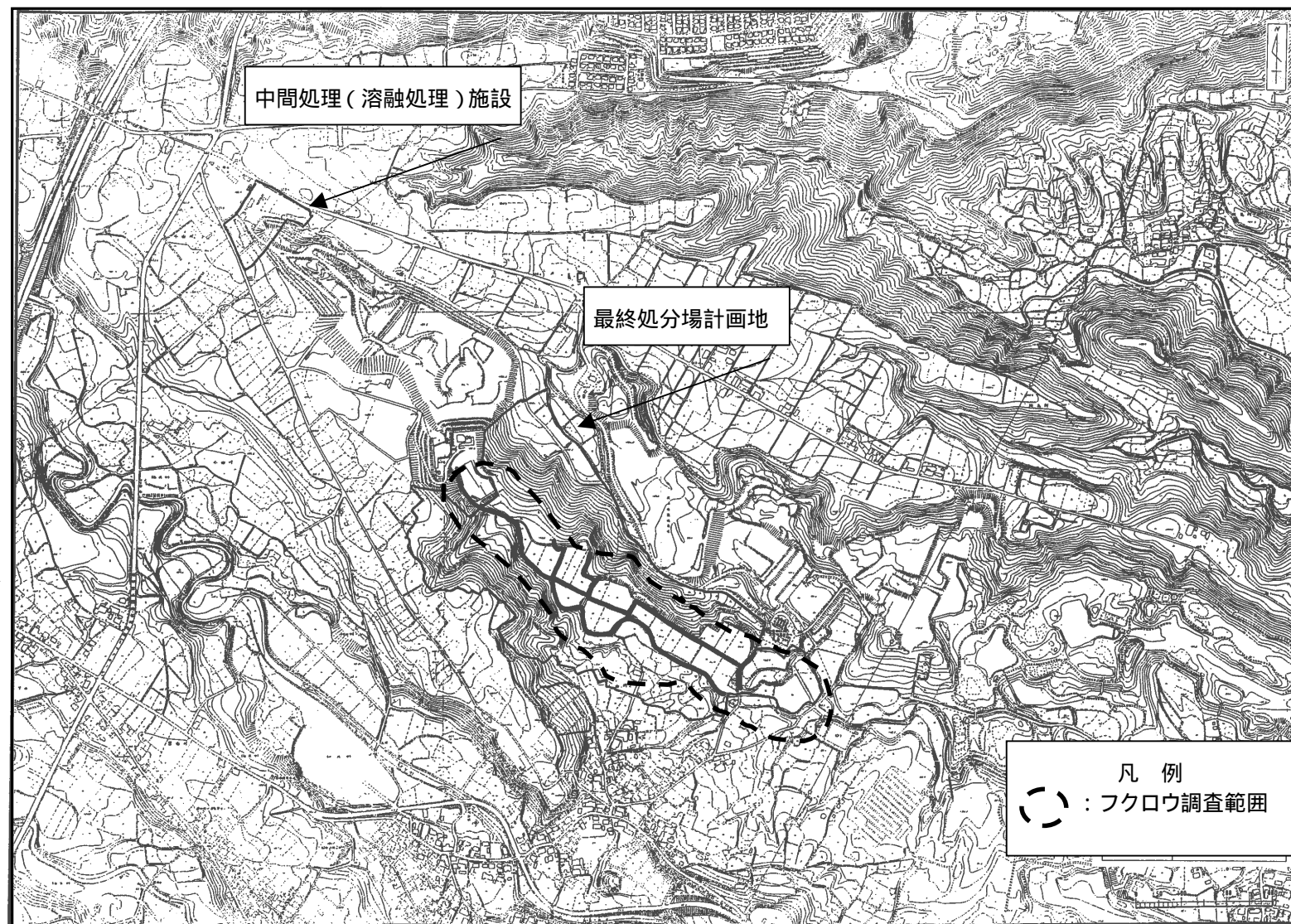


図 8 - 5 フクロウ調査範囲

3 - 2 調査結果

調査の結果、本種の生息を確認することはできなかった。

3 - 3 まとめ

今回、本種を確認することはできなかったが、調査を実施した場所周辺には、四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用しており、猛禽類の進入する余地がないことと、計画地及びその周辺の森林には、本種の繁殖地となる樹洞のあるような大径木はみられないことから、本地域の繁殖地としての利用はないものと思われる。

第4項 ハルゼミ・トゲアリ・ムカシヤンマ

4 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のハルゼミ、トゲアリ、ムカシヤンマについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

4 - 1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表8 - 5に示したとおりである。

表8 - 5 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
ハルゼミ	平成 15 年 5 月 22 日	生息確認調査
トゲアリ	平成 15 年 6 月 30 日	
ムカシヤンマ	平成 15 年 6 月 30 日	

4 - 1 - 2 調査場所

調査は、評価書の調査で本種を確認した場所を中心に行った。

主な踏査ルートは図8 - 6に示したとおりである。

4 - 1 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により行い、対象種の確認に努めた。

なお、ハルゼミについては、本種の鳴き声を録音したテープの再生により共鳴させる方法で生息の確認に努めた。

4 - 2 調査結果

調査の結果、最終処分場計画地北部の林の2箇所において、合計7個体のハルゼミを確認した。

ハルゼミの確認地点は図8 - 7に示したとおりである。

また、ムカシヤンマ、トゲアリは確認することはできなかった。

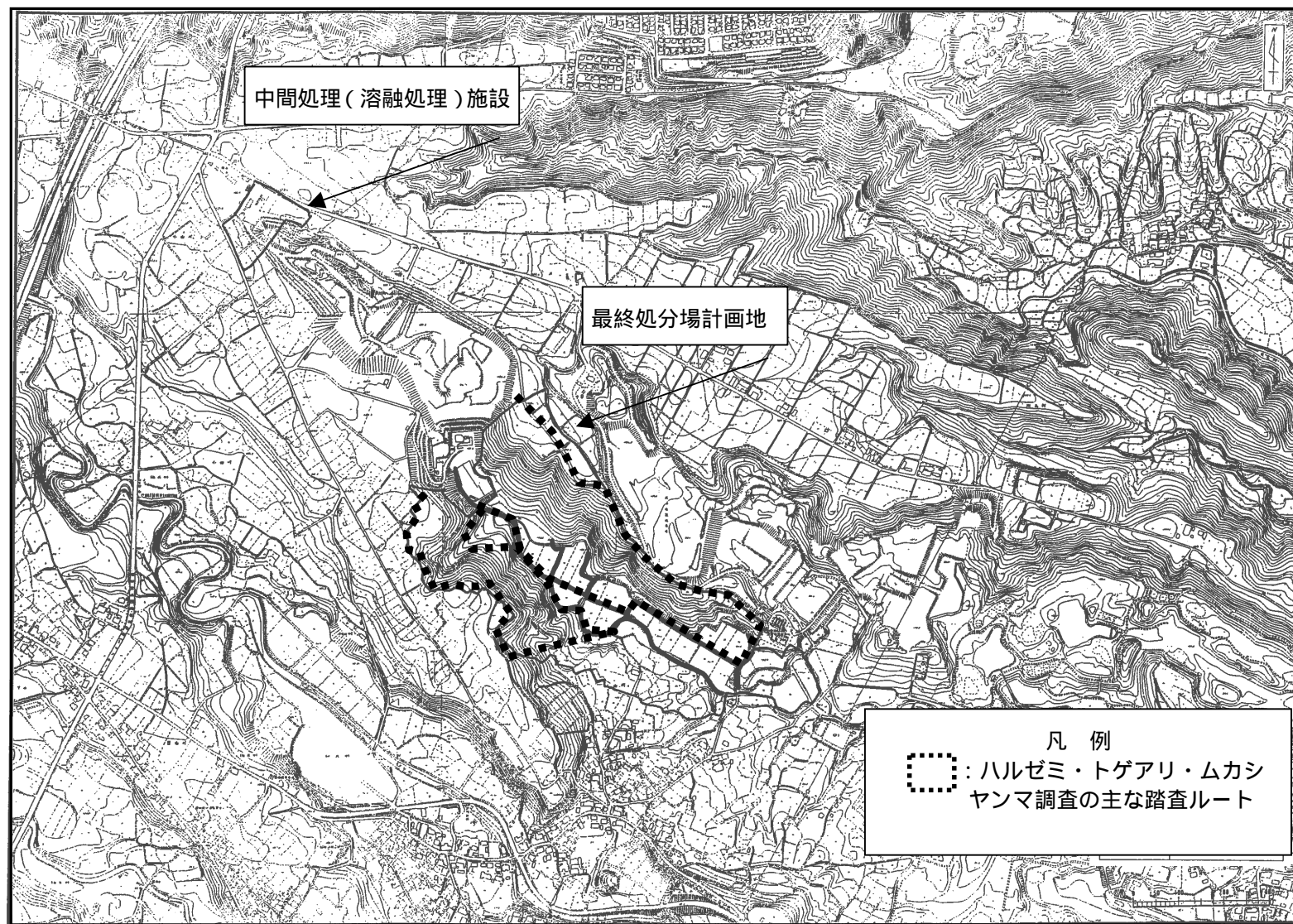


図 8 - 6 ハルゼミ・トゲアリ・ムカシヤンマ調査の主な踏査ルート

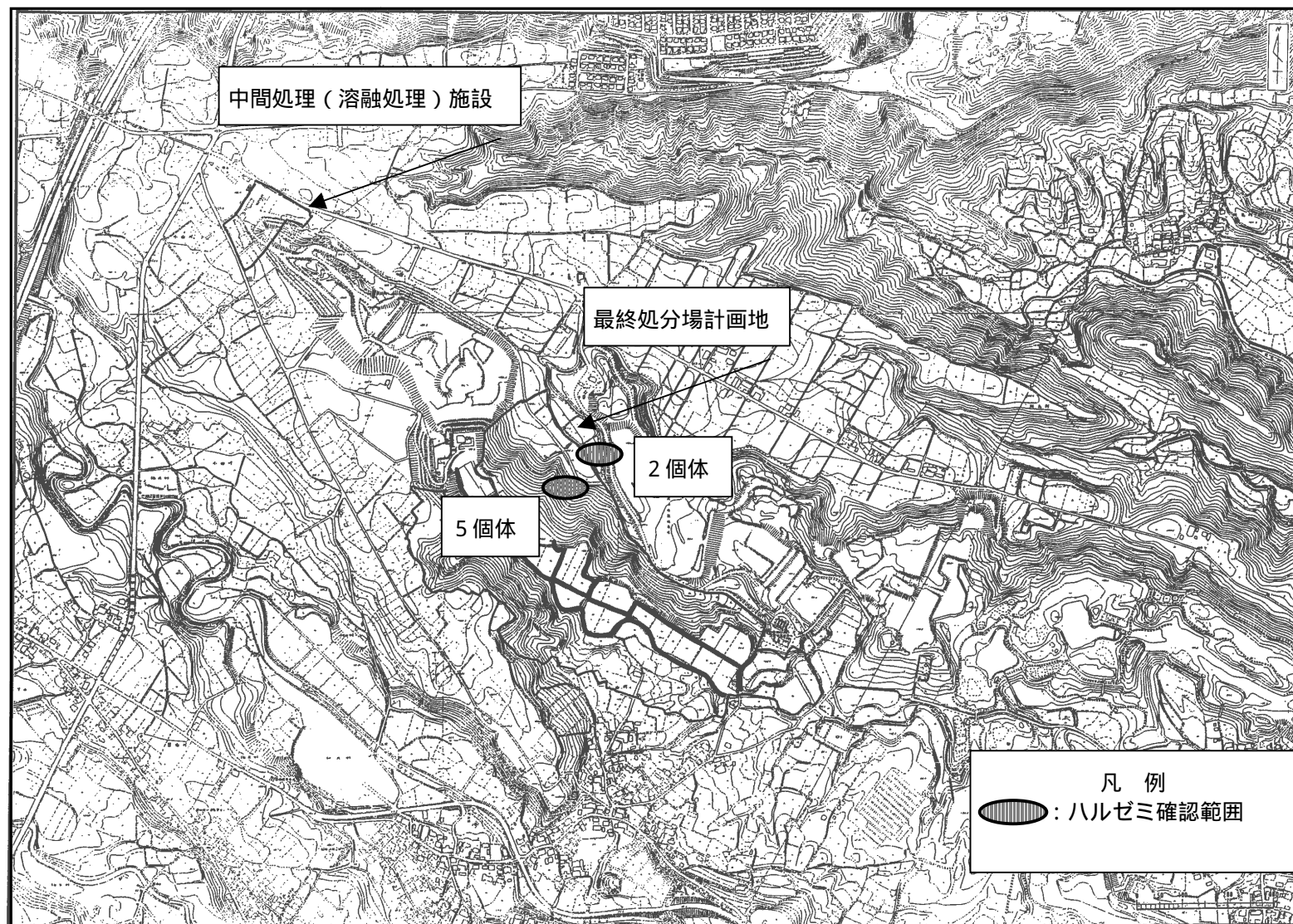


図 8 - 7 ハルゼミ確認地点

4 - 3 まとめ

今回の調査の結果、調査対象とした3種（ハルゼミ、トゲアリ、ムカシヤンマ）のうち、ハルゼミ1種の生息を確認した。

現況調査当時と比べると、ハルゼミについては、生息に不可欠なアカマツのほとんどが枯れていることから、生息数が減少しているものと考えられる。

また、ムカシヤンマ、トゲアリについては、生息確認地点の環境が大きく変化していないことから、生息の可能性はあると考えられる。

第5項 ゲンジボタル

5 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のゲンジボタルについて、最終処分場計画地内を流れる天白川周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

また、ゲンジボタルの幼虫及び幼虫の餌であるカワニナの調査も併せて実施した。

5 - 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査日時及び調査内容は表8 - 6に示したとおりである。

表8 - 6 調査日時及び調査内容

調査日	調査時間	調査内容
平成15年6月3日	20:00～21:30	成虫生息確認調査
平成16年2月18日	9:40～15:30	幼虫及びカワニナ調査

5 - 1 - 2 調査ルート

調査は計画地内の天白川沿いを中心に実施した。

成虫、幼虫及びカワニナの調査ルートは図8 - 8に示したとおりである。

5 - 1 - 3 調査方法

成虫調査は計画地内を流れる天白川周辺を夜間踏査し、飛翔する個体を補虫網等で捕獲し確認を行った。

幼虫及びカワニナ調査は、昼間に天白川及び支川の河川内を踏査し、タモ網等を用いて確認を行った。

5 - 2 調査結果

成虫の調査の結果、合計で119個体を確認した。

確認位置は図8 - 9に示したとおりである。

確認状況としては、天白川沿いの最終処分場計画地内中央部付近に集中してみられた。

また、冬季に実施したゲンジボタルの幼虫及びカワニナ調査の結果、天白川の最終処分場計画地中央部付近（成虫確認位置）を中心にゲンジボタルの幼虫55個体を確認した。

カワニナは最終処分場計画地内の中流付近で広くみられた。

ゲンジボタルの幼虫及びカワニナ確認地点は図8 - 10に示したとおりである。

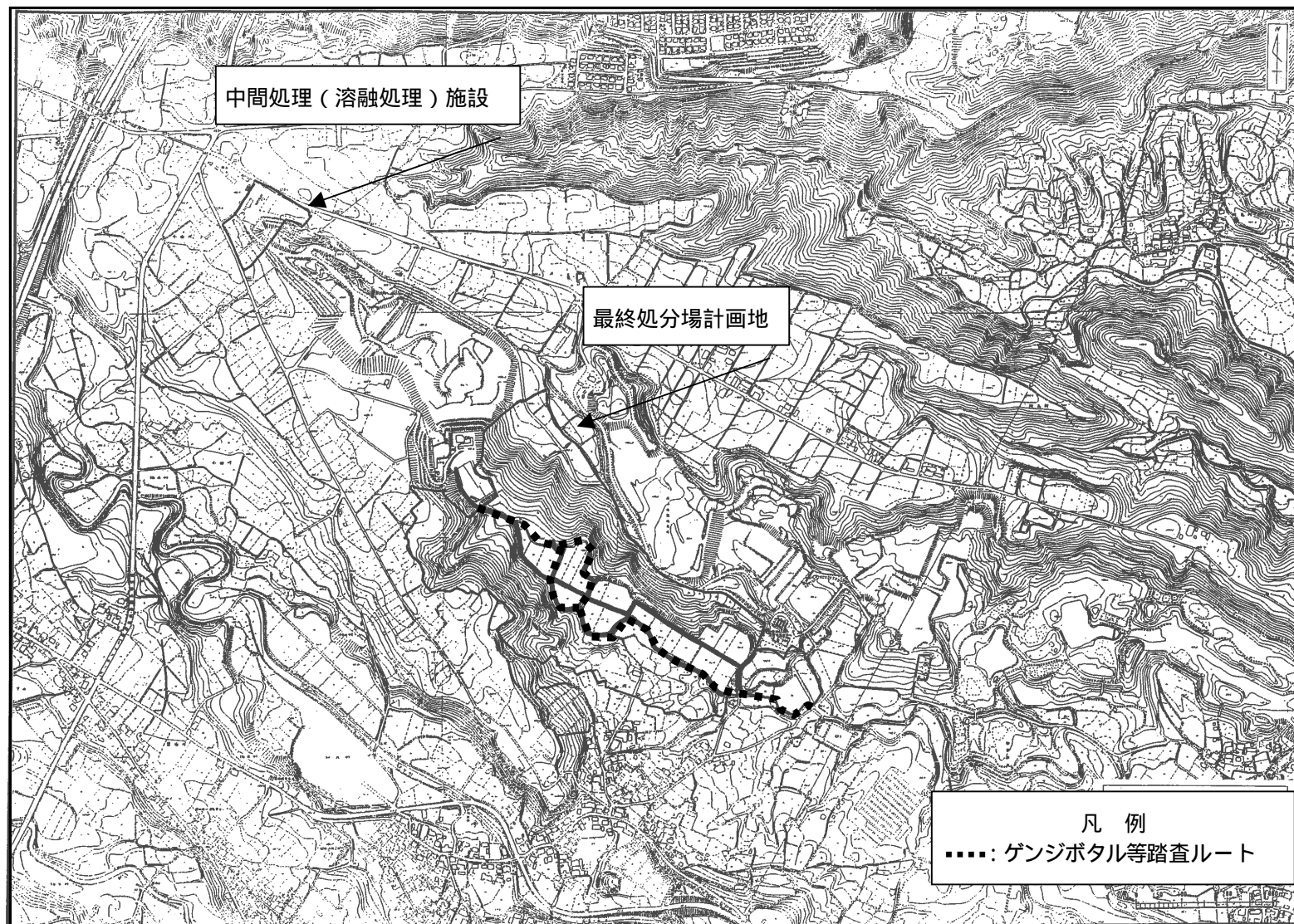


図 8 - 8 ゲンジボタル（成虫・幼虫）カワナ調査ルート

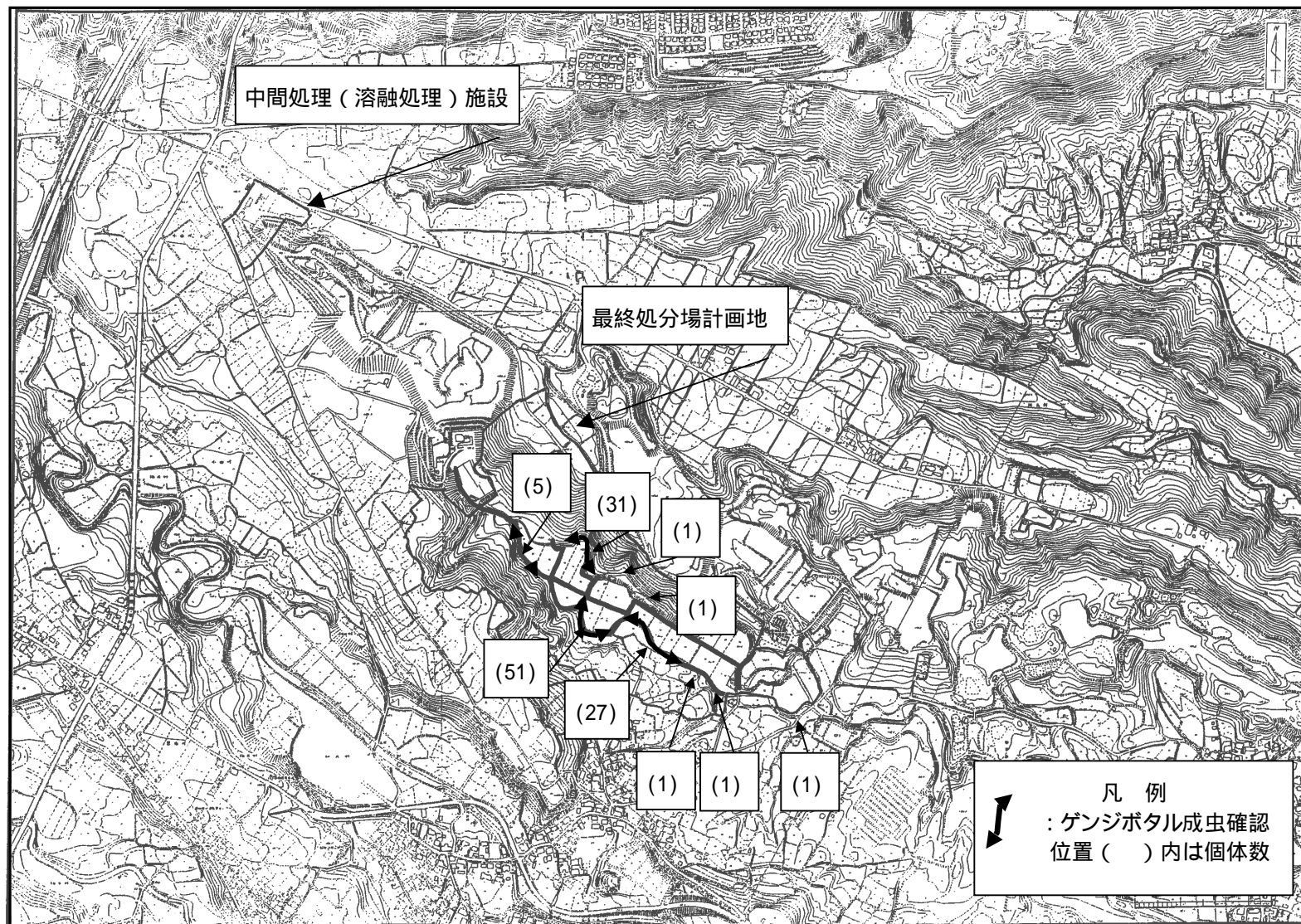


図 8 - 9 ゲンジボタル（成虫）確認場所

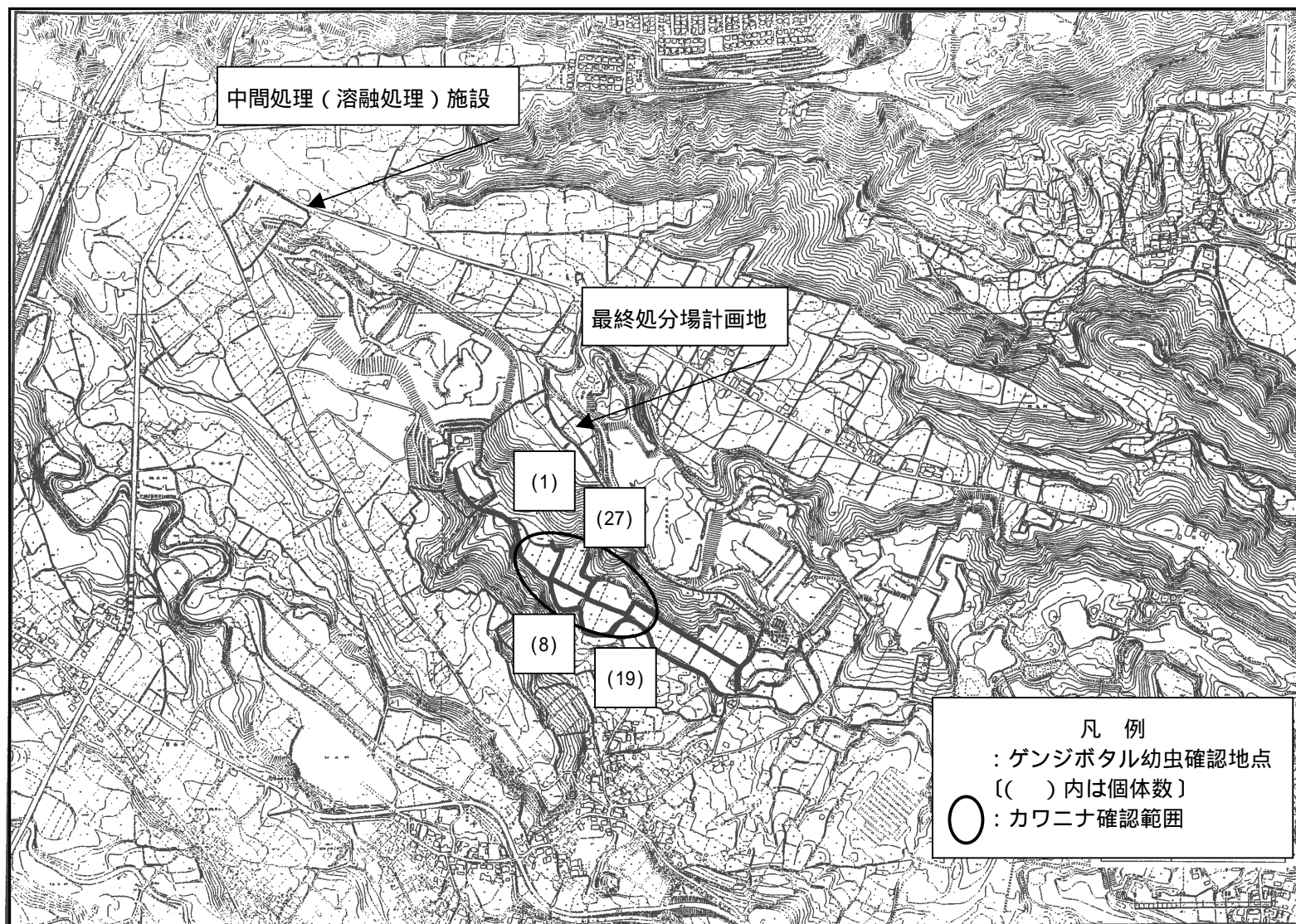


図 8 - 10 ゲンジボタル幼虫・カワナ確認地点

5 - 3 まとめ

成虫については、今回の確認数と昨年度の確認数（12 個体）とを比べてみると、今回の確認数（119 個体）は多い結果であった。

また、幼虫については、計画地内における天白川で実施した調査において、55 個体を確認したことから、多数の成虫が発生するものと考えられる。

なお、本種の幼虫の餌であるカワニナについては、計画地内の中流付近で多数確認したが、上流付近や下流付近では確認できなかった。